

〈彙報〉

昭和六十二年国文学科活動報告

能楽鑑賞と難波宮跡見学

日時 昭和六十二年六月二十六日(金) 午前十時から午後

二時まで

場所 大槻能楽堂(大阪市東区上町二番地)

参加者 短期大学一、二年生全員四〇六名と専任教員六名

と助手二名計 四一四名(人文学部日本文化学科

一、二回生一一八名 教員三名 助手一名も合同

見学)

演目解説

能 「羽衣」

シテ 天人
ワキ 白龍

泉 嘉夫氏

大槻 文蔵

中村 弥三郎

笛 藤田 六郎兵衛

小鼓 久田 舜一郎

大鼓 守家 紀之

太鼓 三島 元太郎

後見 水田 博

泉 雅一郎

狂言「秋大名」

地頭 齊藤 信隆
地謡 赤松 禎友

山本 正人
増田 登
桑野 剛年
武富 康之

大名 茂山 千五郎
太郎冠者 松本 薫
亭主 木村 正雄
後見 茂山 千三郎

(敬称略)

以上の要領で、昭和六十二年度の芸能鑑賞を実施した。大槻能楽堂から武蔵野女子大学の増田正三氏作成の「能」(大槻能楽堂学生観賞能)というパンフレットが事前に配布され、学校の方も全員に解釈つきの「羽衣」の本文を前日までに渡しておいたため、まことに有意義な鑑賞会であった。

なお、大槻能楽堂のすぐ近くに、史跡「難波宮跡」があるので、短大生のみ北谷幸冊先生の解説・指導のもと、実地見学に立ち寄り、各クラスごとに担任・助手の先生方と記念写真を撮って解散した。

文学遺跡めぐり

日時 昭和六十二年十月十六日(金)
場所 (コース) 明日香村中央公民館↓亀石↓橘寺↓川原
寺↓石舞台↓岡寺↓飛鳥板蓋宮伝承地↓酒舟石↓
飛鳥寺↓入鹿の首塚↓甘樫丘↓甘樫丘麓広場

文学遺跡めぐりは、授業の一環として実施する国文学科の主要行事のひとつである。昭和六十二年度は、十月二十六日に国文学科の学生全員を引率して「飛鳥ウォーキングラリー」として行った。問題を解きながら、あらかじめ定めたコースを決められた時間で廻るという新しい試みであった。明日香村中央公民館に於いて「萬葉集と飛鳥」の講話、実施要領説明の後、グループごとに萬葉の飛鳥・古代史の飛鳥の学習に出発した。日ごろ自然に接する機会の少ない学生たちは新鮮な空気のなかでのびのびと行動し、地元の人たちとの触れあいもあったようだ。当日は台風の予報が出ていた日であったが、ウォーキングラリー終了直後まで風雨の来襲に待ったをかけたのは学生たちの熱心さだったのかも知れない。解答を考えながら、地図をたよりに萬葉のふるさとを訪れた学生諸君にとつて、有意義な印象深い一日となった。

大阪私立短期大学協会国語国文研修会

昭和六十二年大阪私立短期大学協会の国語国文研修会を左記の通り本学国文学科で担当した。

日時 昭和六十二年十一月十二日(木) 午前九時～午後七時
場所 龍谷大学天宮図書館・輪違屋・角屋・西本願寺
講師 龍谷大学教授宗政五十緒氏

参加者 二十九名

龍谷大学図書館では、国文学関係古典籍を中心とする書誌学及び出版文化史の研修をした。京都島原の輪違屋と角屋では、近世文学の舞台ともなった遊廓を見学した。西本願寺では、白書院や国宝の北能舞台などを見学した。